

雄雉香炉

当館で最も注目すべき作品の一つが、この雄雉の形をした香炉だ。17 世紀、京焼の大成者として知られる陶芸家・野々村仁清が制作したものである。仁清の数ある名品の中でもこの雉は別格とされ、1951 年に国宝に指定された。

この雉には、仁清の卓越した技術を示すいくつかの点がある。例えば、長い尾。この水平な角度を再現することは、粘土が自重で垂れ下がったり、焼成中に割れたりするため、達成するのは非常に難しいのだ。尾の裏側には、仁清が窯内での位置を維持するために支柱を立てたことを示す 2 つの痕跡がある。完成した姿は、生き生きとした活気のある雉を表現している。

カラフルな羽と生き生きとした目は、色絵技法の好例である。釉薬をかけて焼成した作品の表面に色釉を塗り、再度焼成して釉薬を定着させる。雉の羽は、緑、青、茶などの色で彩色され、黒で部分的に塗りつぶされ、最後に金で輪郭が描かれている。

装飾の名品には純粹に観賞用として作られたものもあるが、この雄雉香炉は使用された形跡がある。蓋の裏側には、香を焚いた煙で変色した通気孔の周辺が見られる。